

# 我が校の強み弱み分析・評価シート

## 調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 調査結果

- ・教科に関する調査からは、国語科、算数科ともに全国の水準を上回りました。
- ・児童質問紙からは、人間関係や生活に関しては肯定的な回答が目立ちました。

## 国語科の強み(○)と弱み(▲)

- 「読むこと」の領域は、前年度同様全国平均を上回りました。本校の強みと捉えることができます。
- 昨年全国平均を大きく下回った「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域は、全国平均を 2.2 ポイント上回り改善傾向が見られました。  
学習調査で出題された漢字…意外（正答率 50.0%）、比べて（9.03%）、期間（78.4%）
- ▲「書くこと」の領域は、図表やグラフを用いて自分の考えを書くことが全国平均を 1.9 ポイント下回りました。また、無回答率も全国平均より 1.1 ポイント高く課題が見られました。

## 算数科の強み(○)と弱み(▲)

- 「変化と関係」の領域は、今年度も全国平均を上回りました。比例しているのか比例していないのかをしっかりと理解できている児童が多いことが分かりました。
- 昨年の全国平均を 2.0 ポイント下回っていた「データの活用」の領域は、表やグラフから読み解くことができるようになりました。
- ▲記述式の問題は、全国平均を下回りました。考察して分かったことを表現する力に課題が見られました。
- ▲図形、割合を苦手としている児童が目立ちました。図形の面積の公式や百分率を復習する必要があると考えられます。

## 児童質問紙より

- 規則正しい生活を送っている児童が多いのが特長です。
- 読書が好きな児童が多いのが特長です。
- 算数科の質問に対して、肯定的な回答が全国の数値よりも高いものが目立ちました。
- ▲国語科の質問に対して、肯定的な回答が全国の数値よりも低いものが目立ちました。無回答率の高さと繋がる結果と見えています。

## 今後の指導の充実に向けて

- ・今年度の研究で進めている聴く話す活動を振り返り書いてまとめる時間を確保する授業づくりに努めます。
- ・学習規律を整え、授業中の学習従事時間を増やしていくよう努めます。